

各関係機関・団体長 様

愛媛県病害虫防除所長

病害虫防除技術情報（第 3 号）の送付について

このことについて、次のとおりお知らせしますので、ご参照の上、防除指導方よろしく願
いいたします。

記

【カネタタキによる温州みかん果実被害の発生について】

本年、南予地域の一部で、着色期に入った温州みかんの果皮に穴を開けて、果肉部分まで食
害される被害が多発した園地が見られた。発生園地ではカネタタキが多数確認され、これまで
の報告事例から、カネタタキ（学名：*Ornebius kanetataki*）による被害と考えられた。

9月中旬に行ったカメムシ発生調査時でも、カネタタキの成虫発生密度が高い園が確認され
ており、梅雨明けが早くその後高温少雨が続いたことが、本種の増殖を助長した可能性が考え
られる。

1 被害の特徴

本種の被害は、幼果期に生じる果面をなめるように食害する症状と、着色期に生じる果皮
を深くえぐったように食害する症状と 2 つの異なった被害を生じる。着色期の症状は、ひど
い場合は果肉部分まで達する場合がある（写真）。

2 形態

本種は、成虫の体長が 9～15mm 程度の小型のコオロギの仲間で、体は扁平で全体が灰褐
色の鱗片で覆われている。雌には翅がないが、雄には暗赤褐色の小さな翅があるため、体に
横帯が入っているように見える（写真）。

3 生態

本種は年 1 回の発生で、ビワ、ニワトコ、カンキツ等の小枝に産み付けられた卵で越冬す
る。カンキツ園では、6月下旬～7月上旬から幼虫の発生が見られ、8月中下旬には成虫に
なる。園内の密度が最も高いのは 8～9 月であるが、成虫は 11～12 月まで生存している。
本種は、一般のかんきつ園で比較的普通に見られる虫であるが、山際の園や防風樹に近接し
た樹で発生が多い傾向がある。昼間は、葉裏や果実同士が重なり合った部分等、影になる部
位に潜っており、主に夜間活動する。

4 防除

果面をなめるように食害する被害は 7 月下旬～9 月上旬頃に生じるため、7 月下旬～8 月
月上旬が防除適期である。本種に登録のある薬剤としては、スミチオン乳剤、ジメトエート乳
剤、カルホス乳剤がある（表 1）が、このうちジメトエート乳剤とカルホス乳剤はみかん登
録のため、温州みかん以外のかんきつでは使用できないので注意が必要である。かんきつで
登録のあるスミチオン乳剤は防除効果が高い（表 2）。

8 月中下旬以降は、深くえぐった様な被害を生じるが、7 月下旬～8 月上旬に防除を行え
ば、その後園内の密度が回復することはないため、被害も収まる。現時点（10 月上旬以降）
の本種を対象とした防除は必要ないが、多発園では来年の発生に注意をする。

表1 カネタタキに登録のある防除薬剤

薬剤名	希釈倍数	作物名	使用時期	使用回数
スミチオン乳剤	1,000倍	かんきつ	収穫14日前まで	5回以内
ジメトエート乳剤	1,000倍	みかん	収穫30日前まで	2回以内
カルホス乳剤	5,000倍	みかん	収穫30日前まで	4回以内

表2 各種薬剤のカネタタキ成虫に対する殺虫効果

薬剤名	希釈倍数	補正死亡率(%)
スミチオン乳剤	1,000	100
スプラサイド乳剤	1,500	66.7
スタークル顆粒水溶剤	2,000	18.2
テルスター水和剤	2,000	63.6
ロディー乳剤	2,000	33.3
サンマイト水和剤	3,000	7.1
モスピラン水溶剤	4,000	26.7
ハチハチフロアブル	2,000	20.0
コテツフロアブル	5,000	73.3

注1) カネタタキに登録のある薬剤はスミチオン乳剤のみ

注2) 平成20年10月に宇和島市吉田町の極早生温州みかん園で採取した成虫を供試

注3) 極早生温州みかん果実を各種薬剤に浸漬処理し、風乾後、供試虫を放飼

注4) 各区とも、1区5頭の3反復

注5) 放飼2日後に、供試虫の生死を調査



カネタタキ♀



カネタタキ♂



着色期の果実被害 1



着色期の果実被害 2



着色期の果実被害 3



左の果実の切断面



幼果期の果実被害

～ お 知 ら せ ～

「病害虫防除技術情報」とは、毎月発表する病害虫発生予察情報（発生予報）を補完して、発生状況や防除対策を情報提供する必要が認められた場合に、随時に発表するもので、平成20年度から開始しました。

ご参照の上、防除指導方よろしくお願いたします。